

教科	地歴	科目	日本史B			単位数	4
学科	普通科	履修学年	2	コース	文系	必修・選択	必修
教科書	『詳説日本史』(山川出版社)						
副教材等	『図説 日本史通覧』(帝国書院)						

学習目標	我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
------	--

指導の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史を学ぶことは、過去の問題にとどまらず、現在及び未来の課題を考える上で不可欠のものを理解させる。 ・日本の歴史を世界史的・地理的視野に立って考察させる。 ・知識の習得のみならず、習得した知識を活用して歴史を解釈させる。 ・センター試験・国公立・私立大入試に対応できる力を身につけるため、問題演習等も必要に応じて実施する。
-------	---

学習計画	学期(時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1学期(40)	第1章 歴史の考察 「歴史と資料」 「歴史の追究」 ----- 第2章 原始・古代の社会・文化と東アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史における資料の特性とその活用及び文化財保護の意義について理解する。 ・衣食住の変化、習俗や信仰などに着目して、日本人の生活様式や精神生活の推移について追究する。 ・文化の特色、人々の生活、都市の形成、他地域との交流などに着目して、日本列島の諸地域における歴史の差異について追究する。 ・自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化に着目して、旧石器文化、縄文文化及び弥生文化の時代の社会について理解する。 ・我が国における国家の形成と律令体制の確立の過程、隋・唐など東アジア世界との交流に着目して、古代国家の展開と古墳文化、天平文化などの文化の特色について理解する。 ・東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など地方の動向に着目して、古代国家の推移と国風文化の展開及び中世社会の萌芽について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題提出 ・小テスト ・ワークシート
2学期(48)	第3章 中世の社会・文化と東アジア ----- 第4章 近世の社会・文化と国際関係①	<ul style="list-style-type: none"> ・武士の土地支配と公武関係、宋・元とのかかわりに着目して、武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運について理解する。 ・日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭に着目して、産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向について理解する。 ・ヨーロッパ世界との接触とその影響、鎖国などその後の対外関係、支配体制と身分制度や儒学の役割、文化の特色に着目して、織豊政権、幕藩体制の特質について理解する。 	をもとに、観点別評価を行う。	

	3 学期 (40)	第 5 章 近世の社会・文化と 国際関係②	<ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制の下での経済機構や交通・技術の発展，都市の繁栄に着目して，農業や商工業の発展及び町人文化の形成，農山漁村の生活文化について理解する。 欧米諸国のアジアへの進出，学問・思想及び産業の新たな展開に着目して，幕藩体制の動揺と近代化の基盤の形成について理解する。 	
計 1 2 8 時間 (5 5 分授業)				
評価規準と 評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
	日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，日本人としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	日本の歴史の展開を，歴史的視野だけでなく地理的・世界的視野に立って考察・解釈し，適切に表現できる。	諸資料を収集し，有用な情報を選択・活用することを通して，歴史的事象を追究する方法を身に付けることができる。	日本の歴史の展開についての基礎・基本を確実に習得し，世界史的視野・地理的視野に立って総合的に理解することができる。
	<p>[評価方法]</p> <p>以上の観点をふまえ，授業への取り組み（授業態度・学習活動への参加状況など），課題の提出状況，定期考査，歴史を考えるワークシートなどから，総合的に評価する。</p>			
学習の ポイント	<p>日本史Bは些末な一問一答型の知識を単に暗記する教科ではない。センター試験や国公立の2次試験の受験科目で日本史Bを選択するならば，歴史的事象の因果関係を知り，時代を総括する解釈力が必要となる。それは，単なる知識の暗記で身に付くものではない。知識を習得するのみならず，歴史を考えるために知識を活用しなければならない。授業こそが主軸であることを忘れず，集中して授業に取り組んでほしい。</p>			